

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	宮 崎 県
-------	-------

学校の概要 (平成15年4月現在)

学校名	延岡市立南方小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	6	4	4	4	4	4	1	27	34
児童数	157	149	139	137	139	153	1	875	

研究の概要

1. 研究主題

自ら学ぶ児童の育成 ~基礎的な知識・技能の定着を図る環境づくりを通して~

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

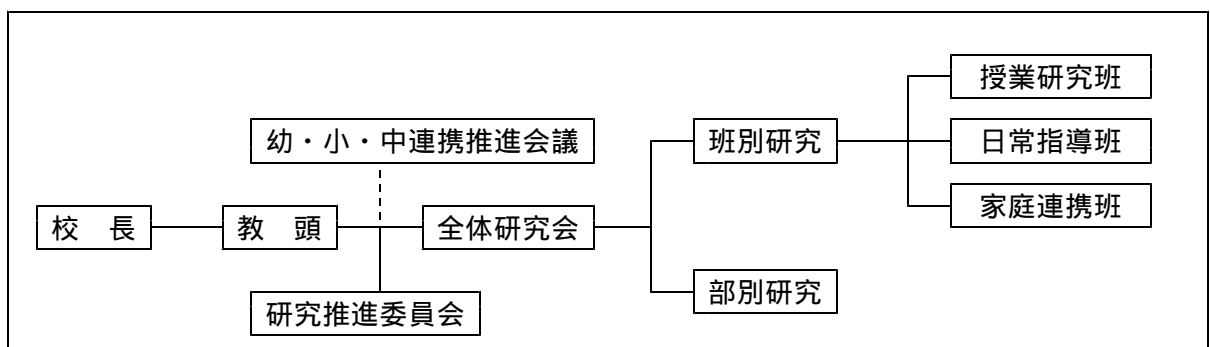
<p>1 少人数指導</p> <p>3, 4, 5学年の算数科において少人数指導を実施している。算数科においては, 児童の理解の差が出やすい教科であるため「グループ別学習」「習熟度別学習」「課題別学習」「興味・関心別学習」等の学習形態の工夫を図り, 基礎・基本の確実な定着を図っている。</p> <p>基本的には, 1学級に担任と少人数指導教員の2名による形態で学習を進めている。</p> <p>3, 4学年では, 他の学年の少人数指導教員の協力を得て, 2学級を5人で指導する体制も取り入れながら少人数指導を進めた。</p> <p>2 一部教科担任制</p> <p>教師の得意領域を生かし, 教科担任制を導入することで, わかる授業づくりを進め, 児童の学習意欲を高め, 基礎・基本の定着を図っている。一部教科担任制は, 学習指導面だけでなく多くの児童とのかかわりを持つことで生徒指導面からも成果がある。</p> <p style="text-align: center;">実施教科: 社会, 音楽, 図工, 家庭</p> <p>3 専科の授業で授業を行わない教師の活用</p> <p>第5学年において, 理科専科の授業で学級担任が授業がない時間に少人数指導に入る指導形態を試みた。1クラスを2つグループに分け, 専科授業で授業を行っていない教師が両グループにかかわる指導形態を取る。特に練習問題を解く際に, 両グループの児童が自力で学習を進めている時の丸付けや支援を行う。この形態に入る教師をスーパーティーチャー(仮称)として児童に紹介し, いつでも尋ねていけるようにしている。この形態を週1時間程度設定することで, 基礎・基本の定着が期待できる。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ</p> <p>指導方法・指導体制の工夫・改善を進め、学習意欲を高め、確かな学力の定着のための学習環境の整備・充実を図る。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none">○ 第3・4・5学年において少人数指導の実施と、第6学年での一部教科担任制を取り入れ基礎・基本の確実な定着を図る。○ 「授業 - 日常指導 - 家庭学習」の学びのサイクル生かした学習の充実を図り、「自らやる勉強」へと学習意欲を高める。○ 幼・小・中の連携により連続的・継続的な指導の充実を図り、なめらかな接続へつなげる。 <p>研究の内容・方法</p> <p>1 指導方法・指導体制の工夫</p> <p>(1) 分かる授業の実践</p> <ul style="list-style-type: none">ア 少人数指導の実施イ 一部教科担任制の導入(6年) <p>(2) 基礎的な知識、技能の定着を図る日常指導の充実</p> <ul style="list-style-type: none">ア トライタイムの充実(月、水、木、金曜の朝の10分間の学習)イ 個別指導の充実(毎週水曜、第2・4金曜 15:15~15:45) <p>(3) 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none">ア 家庭学習についての実態調査イ 家庭学習の手引きの作成 <p>2 幼・小・中の連携による指導体制の構築</p> <p>(1) 幼・小・中連携推進会議の設置</p> <p>(2) 幼・小・中合同研修会の実施</p> <p>3 学習環境の整備・充実</p> <p>(1) 基本的な学習習慣の確立</p> <ul style="list-style-type: none">ア 「目と耳と心で聞く」の指導の充実イ 基本的話型による発表力の育成、話し合い活動の活性化 <p>(2) 学習意欲を高める環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none">ア 算数コーナーの設置イ 教室、校舎内の設営の工夫 <p>4 互いに認め合い学び合う支持的人間関係づくり</p> <p>(1) 生徒指導の側面からの環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none">○ 基本的な生活習慣の確立 <p>(2) 望ましい人間関係の構築</p> <ul style="list-style-type: none">○ ソーシャルスキル(社会的スキル学習)を活用した望ましい人間関係づくり
--------	--

平成16年度	<p>テーマ 指導方法・指導体制の確立を進め、子どもの学習意欲に基づいた、確かな学力の定着を図る。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数指導、一部教科担任制における指導方法・指導体制の工夫・改善を図り、きめ細かな指導を実施し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ○ 授業評価、自己評価を取り入れ、分かる授業づくりに努め、教師の意識改革を図った授業改善を進める。 ○ 幼・小・中学校による双方向の連携を強化し、共通実践を通して学習習慣の確立を目指す。 <p>研究の内容・方法</p> <p>1 授業改善</p> <p>(1) 指導体制の共有・発展</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 少人数指導の実施と指導方法・指導体制の確立 ○ 教科担任制の実施と指導体制の確立 ○ 学年内支援による学習指導の充実 <p>(2) 学習のシステム化と基礎・基本の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 授業評価による授業の改善 ○ 児童の自己評価による学びの把握と個に応じた指導の充実 <p>2 幼・小・中の連携</p> <p>(1) 学習訓練の共有化による連続的・継続的指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 基本的な学習習慣づくり ○ 聞く力の育成 <p>(2) 幼・小・中の相互交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 交流授業 ○ 幼と小、小と中の教師による協力授業 ○ 合同研修会 <p>(3) 家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習の定着と生活リズムの確立 <p>(4) 地域との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 地域人材の活用
--------	--

(3) 研究推進体制



【研究推進委員会】

校長，教頭，教務主任，研究主任，研究副主任，各班長で構成し，研究の計画立案にあたる。

【全体研究会】

研究推進上の基本となる問題について検討し，共通理解を図る。

【班別研究】

授業研究班，日常指導班，家庭連携班で構成し，それぞれの班の研究を深めるとともに，実践の推進を行う。

【部別研究】(学年部・学年研究会)

それぞれの班の研究を受けて，実践的な研究を行う。

検証授業を実施する。(学年及び学年相互，その他)

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(1) 授業改善

- 第3・4・5学年において算数科の少人数指導を実施し，単元の指導内容に応じた指導体制の見直し改善を行うことができ，きめ細かな指導の充実を図ることができた。
- 第6学年において一部教科担任制を取り入れ，他の学級を指導することで自らの指導への責任感と指導技術が向上し，さらに生徒指導の充実にもつながった。

(2) 家庭との連携

- 家庭学習の在り方について実態調査をもとに「家庭学習の進め方」を作成・配布し，家庭との連携を図った学習習慣の定着への取組を進めることができた。

(3) 幼・小・中の連携

- 合同研修会を実施(学期1回)し，幼・小・中における課題を共有することができ連続的・継続的な指導の重要性を再確認することができ共通実践につながった。
- 中学校教師の協力による授業を実施することで，児童の実態をより正確に知らせることができ，中学校へのなめらかな接続に生かすことができた。

2. 今後の課題

(1) 授業改善

- 少人数指導における指導方法，指導体制の見直し改善を図り，児童の学習状況に応じたきめ細かな指導の一層の充実を図る必要がある。
- 授業評価や自己評価を取り入れ，基礎・基本の確実な定着のために授業改善に努め，学びのサイクルを確立を図る必要がある。

(2) 家庭との連携

- 「自らやる勉強」への意欲を高め家庭学習の定着のために，家庭との一層の連携を図り望ましい生活リズムの確立を進める必要がある。

(2) 幼・小・中の連携

- 学習習慣の定着を図るため，幼・小・中の双方向による連携を強化し，共通実践を進めるための指導体制を確立していく必要がある。

学力等把握のための学校としての取組

- 1 学力検査の実施
算数科についての基礎・基本の定着の状況を把握し、今後の指導に生かすために実施
(平成15年5月7日)
- 2 「読み」と「計算」実態調査
「読みの力」と「計算力」の実態を把握し、継続的な指導に生かすために全学年を対象に実施(平成15年6月)
- 3 家庭学習についての実態調査
家庭学習の様子(学習時間、学習の時間帯、テレビ視聴、読書等)についての実態調査を行い、「家庭学習の手引き」の作成と家庭学習の在り方の指導に生かすために実施
(平成15年7月)
- 4 国語科、算数科について基礎学力調査(宮崎県教育委員会)を第3,5学年について実施(平成15年10月30日)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 1 県算数・数学教育研究大会における算数科(少人数指導)の公開授業の実施
- 2 「学力向上フロンティア事業」実践発表会での報告
- 3 平成15年度研究紀要の管内公立小中学校への配布
- 4 学校のホームページによる研究の取組内容の公開

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校

【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無